

研究区分	教員特別研究推進（独創・先進的研究）
------	--------------------

研 究 テーマ	社会的決定要因と 8020（ハチマルニイマル）運動の認知度とが現在歯数に及ぼす影響				
研究組織	代 表 者	所属・職名	短期大学部・教授	氏名	野口 有紀
	研究協力者	所属・職名	短期大学部・講師	氏名	上田 一紀
		所属・職名	短期大学部・助教	氏名	藤田 美恵子
		所属・職名	短期大学部・教授	氏名	吉田 直樹
		所属・職名	食品栄養学部・教授	氏名	栗木 和典
	発 表 者	所属・職名	短期大学部・教授	氏名	野口 有紀

講演題目
社会的決定要因と 8020（ハチマルニイマル）運動の認知度とが現在歯数に及ぼす影響
研究の目的、成果及び今後の展望
【目的】口腔疾患は世界的に多く、歯の喪失や全身健康に影響する。日本では「8020運動」の推進により、80歳で20以上の歯を有する者の割合は大きく増加している。さらに、国民皆保険制度のもとで歯科医療へのアクセスが良好であり、無歯顎率の低さにも寄与していると考えられる。一方で、社会経済的要因による口腔の健康格差は依然として存在している。本研究では、8020運動の認知状況に着目し、社会経済的要因および口腔健康状態との関連を明らかにすることを目的とした。 【方法】2022年3～5月に、20～69歳の成人1,500名を対象に無作為抽出し、郵送法による無記名自己記入式質問紙調査を実施した。欠損値を除いた506名を分析対象とし、8020運動の認知度、現在歯数、性別、年齢、教育歴、世帯収入、婚姻状態について解析した。χ^2検定およびロジスティック回帰分析を用いて検討した。 【結果】対象者506名のうち、女性が54.7%を占め、50歳代が最多であった。教育歴は高等学校以下が約半数、世帯収入400万円未満が6割以上であった。現在歯数は20本以上が89.3%、8020運動の認知度は63.3%であった。χ^2検定の結果、現在歯数は性別・教育歴・8020運動認知と、認知度は性別・教育歴・現在歯数とそれぞれ有意に関連していた。ロジスティック回帰分析では、単変量解析で8020運動を知らない者は歯数19本以下のオッズが高かったが、多変量解析では有意な関連は認められなかった。 【考察】本研究は、8020運動の認知度と社会的決定要因および口腔健康との関連を検討した。その結果、歯数19本以下は男性、高年齢、低教育歴と関連し、口腔健康における社会的格差の存在が示された。8020運動の認知度は単変量解析では歯数と関連したが、多変量解析では有意ではなく、独立した影響は限定的であった。一方で、認知度は社会的要因や口腔ヘルスリテラシーと関係する可能性が示唆された。 以上より、8020運動は口腔健康行動の促進に有用である可能性があるが、特に男性、高齢者、低教育歴層などへの効果的な普及が重要であり、口腔の健康格差の縮小や全身健康の維持、さらには医療費削減にも寄与することが期待される。 【結論】8020運動を推進している日本においても、成人の口腔健康状態には健康格差が存在する可能性が示唆された。社会的決定要因を考慮した対策を推進し、口腔の健康格差の縮小に向けた取り組みが求められる。